

令和7年度 第2回 浜松中部学園運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年9月19日（金） 14時00分から15時30分まで
- 2 開催場所 浜松中部学園 会議室
- 3 出席委員 村井 秀行、桐井 晶、鈴木 秀夫、広瀬 恵子、馬淵 吉晴
富田 昌和、鳥居 浩幸、森川 誉進、三ツ井 りか
鈴木 康子 三浦 一哲
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 岡本 雅康（校長）、星宮 ちさと（教頭）、杉山 貴和（教頭）
影山 直巳（主幹教諭）、井上 佐矢子（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 井上 佐矢子
- 8 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木秀夫委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 9 協議事項
学校運営基本方針について
・教育課程評価（中間）の報告について
・部活動地域展開について
- 10 会議記録
司会から、出席者が過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
(1)教育課程評価（中間）の報告について
議長の指示により、主幹教諭から、別紙資料に基づき教育課程評価（中間）の報告があり、委員からは、以下の発言があった。

・昼休みのタブレット使用は猛暑の影響で仕方がない面はあるが、学校には、アナログの世界への誘導（カードゲームやボードゲーム等）も期待したい。家では、安易にタブレットへと流れている子もあると思う。（広瀬委員）
・かるたやウノ、トランプなどの用意はしたが、遊び方によっては全員を賄うことができない場合もある。タブレットを使った学習ゲームのほか、（タブレットを使った）課題があり、それに取り組んでいる子もいる。ハンカチ落としやフルーツバスケットなどの仲間がいるから楽しさを味わえる機会も引き続き大切にしていく。（影山主幹）
・タブレットを使って授業をしている…昔とは異なる環境になっている。よくわからない面もあるが、学校帰りの様子を見ていると友達と仲良く関わっている姿を見ることができている。（鈴木秀夫委員）

- ・家でもよくタブレットを使っている。使い方のルールを決めて、時間を決めてやめている。教室内の過ごし方については、学校で用意する（与える）だけでなく、何もないなかで、自分たちで工夫したり生み出したりする経験も大切にしていきたい。挨拶については、挨拶をするようにという指導だけでなく、なぜ挨拶をするのかを考えさせ、心を込めて挨拶ができる子にしていきたい。（鳥居委員）
- ・知っている人には挨拶をするけれど知らない人には（ビブスを着ていない）場合には、挨拶をしない。挨拶をする目的を指導してほしい。一方、子供から挨拶をしなかったことに腹を立てたコーチが歩いて帰れと言ったニュースを見た。子供からだけでなく、大人（教員、地域）からも挨拶をして範を示すことが大切ではないか。（森川委員）
- ・地域のあいさつ運動、ビブスを着ていればきちんと挨拶ができる。（桐井委員）
- ・地域の集まりの場で話題にあげ、学校だけでなく地域みんなで盛り上げられたらよいのでは。（森川委員）
- ・知らない人に挨拶をすることに不安を覚えることも理解できるが、不審者対応としては、こちらから声をかけた方が防犯としてもよい。顔を見られると覚えられるので、逃げていく。（鈴木秀夫委員）
- ・ベストもある。前は、中に入ってきてても挨拶されなかったが、最近は、挨拶をしれるようになった。ベストを着ているときは挨拶をしてくれる。ベストを脱いでいれば、挨拶をしてくれない。ボールを拾ってあげれば、すんなり挨拶ができた。挨拶に始まり、挨拶に終わる…基本なので進めていきたい。（村井会長）
- ・銭湯に行くときに、祖母から何度も挨拶をしろと言われた。素直な時に挨拶をしましょうねと教えることがよいと思う。挨拶をしていると、「しっかりしている」近所の人から褒められることが多かった。その後の人生を大きく変えることになる場合もある。ニュースでも「あいさつをしている」=いい人、と見られる。なぜ、あいさつをしなければならぬか、何度も繰り返し言い続けることが大切。（馬淵委員）
- ・子供たちに自ら挨拶をした。数年たったら、向こうから挨拶をしてくれるようになったという話を聞いた。まずは、大人が手本を見せていくことが大切。（三浦委員）
- ・相手に対して尊敬する。礼儀。挨拶をすることによって次の言葉が生まれる。挨拶を返さない…いろいろな社会の事件を見て、自分の命を守ろうという心理が働いている可能性もある。外で挨拶をしないことを戒めることは、慎重になるべき。身の危険を感じたら逃げることも大切。挨拶は大切だが、それだけでないことも心にとめておきたい。（桐井委員）
- ・タブレット以外の遊びについても、協力できることはやっていきたい。声をかけてもらえれば取り組むことができる。（鈴木康子委員）
- ・きっかけづくりという面でも地域の方に協力をいただけるのがありがたい。あとは子供たち同士で、展開できるのではないか。（広瀬委員）

（２）部活動地域展開について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき部活動地域展開の説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・地域クラブに対する生徒や保護者への希望調査はどうするのか？（桐井委員）
- ・今の７年生が８年生になった９月以降からの活動について、現在の７年生へアンケートを実施した。小学生には聞いていない。部活に入っている生徒を対象に顧問を通して、希望調査をした。部活動に入っていない生徒は、別の形で習い事に参加していることを鑑みると、地域クラブに入るのはあまり多くない。（星宮教諭）
- ・平日の地域活動がなくなることについての見通し。「当面の間」は？（森川委員）
- ・平日の放課後に指導者を集めることは難しいのではないかと。平日休日ともに、地域クラブに移行する自治体もある。学校数が少ない場合は、自治体やスポーツ協会、企業などからの指導者派遣等で全体を賄うことができる。浜松は広く学校数も多いため、なかなか難しい。学校ごとの対応になる。（校長）
- ・高体連はどうなるのか？裁量枠はどうなるのか？（森川委員）
- ・高体連では、ほとんど話題になっていない。クラブ主体になっても中体連の大会があるので、高校の先生が大会を見に行くことはあると思われる。それは、未知数。部活動を中心に頑張りたい子供が私学に流れないかという危機感はある。（校長）
- ・部活動自体が今後どうなるのか心配している。（鳥居委員）
- ・市教委から保護者にはさくら連絡網で何度か情報を発信しているが、今後の流れについての問い合わせはある。入学説明会等の中で、説明をしたいと考えている。（校長）
- ・基本的なことが理解できていない中で、たくさんの情報が送られてくるので、なかなか理解が追いつかないというのが現状なのではないか。よくわからないので、なくなるのではないかと不安につながる。５年生でも受験の話は出ているので、５６年生に伝えていくことが大切だと思う（広瀬委員）
- ・制度の変わり目、スポーツをやりたい子供たちの思い、中部中という名前を背負って出場する生徒の思いをくんで、つなげられていくといいなと思う。（鳥居委員）

司会から、次回の会議は、１１月１４日（金）を予定しているが、詳細が決まり次第連絡する旨の報告があった。